

令和5年度 芝谷中学校の教育活動について(学校評価)

高槻市立芝谷中学校

校長 高谷 陽子

陽春の候、保護者・地域のみなさまにおかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。また、平素より本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、今年度の教育活動について、芝谷中学校区グランドデザインを基に取組を振り返るとともに、学校評議員のみなさまのご意見や、学校教育自己診断アンケート結果を踏まえ、今後の対応をまとめましたので、以下のとおりお知らせいたします。

1. 芝谷中・第九中学校区のめざす子ども像

「自ら学び、仲間とつながり、未来を拓く子ども」

自立：自ら考え、判断できる子ども 自分の力で生き抜くことができる子ども

共生：お互いのことを理解し、支えあえる子ども 生命を大切にし、思いやりの心をもてる子ども

創造：社会に参画し、新しいことにチャレンジできる子ども

2. 芝谷中学校の教育目標、めざす子ども像

「人権を尊重し、自ら考え行動できる心豊かな生徒の育成」

3. 校区の今年度教育目標と重点取組

令和5年度芝谷中学校区グランドデザイン

「受け止め、つながり、表現できる授業の創造」～主体的・対話的で深い学びの研究～

① LSP*企画委員会を中心に、小中が連携した取組を進める。

- 連携一貫担当者会(企画委員会・推進委員会)や各部会の充実を図り、校区のめざす子ども像の育成を図る。
- 全国学力・学習状況調査や意識調査アンケートの結果を分析し、いじめ・不登校の未然防止や学力・コミュニケーション力の向上を図る。
- 各校の教育課程や授業研究を共有し、共に高まり合うシステムを構築する。

② 「総合的な学習の時間」を中心に子どもたちの社会参画力を育む。

- 探究のプロセスを重視し、児童生徒が参画の実感を得られる学習を設定する。
- ICT 機器を活用し、多様な人や知識とつながる豊かな学びを実現する。

③ 豊かな学びを推進するため、教職員の資質・能力の向上を図る。

- 校区で小中合同研究授業を実施し、多角的な視点による研究協議を実施する。
- 児童生徒に豊かな人権意識を育てるため、校区で合同の人権研修を実施し、教職員の人権感覚を涵養する。

*本校は校区の3小学校とともに「LSP(Learning Spiral Project)」として連携型小中一貫校としての取組を進めています。

4. 3に基づいた本校の取組と、それらに対する学校教育自己診断アンケート結果および自己評価

※表中の数値は「そう思う」「とてもそう思う」を合わせた生徒の回答の割合

① LSP 企画委員会を中心に、小中が連携した取組を進める。				
主な取組	● 校区校長会（月1回）、企画委員会・推進委員会（年間計12回）を開催し、校区の取組の充実を図りました。部会に分かれ、児童生徒の様子の交流や、小中9年間を見通したキャリア教育全体計画の作成を行いました。 ● 生徒への意識調査を実施し（7・12・3月）、結果を踏まえて、生徒にとって学校が居心地のよいものになるよう、授業改善や学校行事の見直しを進めました。体育祭では生徒のアイデアを取り入れ、新しい種目を実施するとともに、当日は生徒主体で進行することができるよう支援に力を入れました。 ● 生徒会活動は生徒の自治的な活動が促進されるよう執行部の活動を中心に据えて行いました。「シバハピ（Shibatani Happy Hour Project）」「3年生を送る会」といった学校行事に加え、「自習室の開設」「対話ルーム（仮称）の設置」など、生徒自らが学校の課題を見出し、解決に向けて取り組みました。			
	学校教育自己診断 アンケート結果	関連する質問項目	R4	R5
		学校へ行くのが楽しい。	89.6%	90.7%
		クラスは居心地がよく、楽しい。	93.4%	90.9%
私は授業に意欲的に取り組んでいる。		94.2%	91.8%	
	生徒会活動に関心がある。	64.3%	57.2%	
学校評議員からの意見 自己評価及び	昨年度と比べて増減はあるものの、生徒たちはおおむね学校生活に満足していると考えます。 校区連携では、今日的な課題を鑑み、さらなる充実が必要になってきたため、来年度に向けて LSP 組織の改編を行いました。これまであった「授業研究部会」はそのままに、「総合的な学習の時間」「特別活動」「安全教育」の3つの部会を立ち上げ、小中9年間を見通した系統的な教育をさらに進める予定です。 生徒会への関心は昨年度に比べて低くなりました。生徒が自治的に活動することのよさを知り、参加したくなる生徒会活動づくりに向けて研究を進めていきます。 学校評議員さんからは、年3回の意識調査を行い細やかに生徒の様子をみとっていることや、その結果をもとに取組の検討を行っていることについて、肯定的なご意見をいただきました。			
② 「総合的な学習の時間」を中心に子どもたちの社会参画力を育む。				
主な取組	● 「総合的な学習の時間（以下、「総合」という）」を全面的に見直しました。「人生を楽しめる人になろう」をテーマに掲げ、予測困難な未来を生き抜く力の育成を図りました。1年生は福祉・防災、2年生は職業、3年生は高槻市の街づくりについて、探究的に学びました。2月には各学年でまとめの発表会を行い、来校いただいた保護者・地域・企業等関係のみなさまから高い評価を得ることができました。 ● 生徒がタブレット端末を駆使して情報を収集するとともに、集めた情報を整理・分析して課題の解決を図る場面を多く設定しました。特に総合では、専門の方にリモートでインタビューを行うなど、学校の枠にとらわれない活動を行いました。			

アンケート結果 学校教育自己診断	関連する質問項目	R4	R5
	総合的な学習はやっていておもしろく、将来役に立つと思う。	89.9%	88.4%
	学校では、自分の生き方や将来について考える機会がある。	93.6%	92.8%
	教え方や教材を工夫している先生が多い。	95.2%	96.1%
学校評議員からの意見 自己評価及び	昨年度と比べて増減はあるものの、生徒たちはおおむね総合に満足していると考えます。 総合の授業では、生徒たちは難しい課題にも関わらず、自分でよく考え、仲間と協力して主体的に学ぶ姿がどの学年でも見られましたが、「将来役に立つ」という質問になると、肯定的回答はあまり高くありませんでした。生徒たちがもつ「将来」のイメージが漠然としていたからかもしれません。総合での学びは生徒たちの未来の生き方に直結すると考えています。各教科や特活の学びと連動させ、総合での学びの有用性を生徒たちに伝えていきたいと思います。 学校評議員さんからは、総合について肯定的なご意見をいただきました。講師として総合に関わっていただいた方からは、1年間で生徒が大きく成長していく様子がよくわかって楽しかったという感想をいただきました。また、総合の取組に興味をもつ保護者もおられるから、協力していただく「しかけ」づくりの必要性について言及された方もおられました。		

③ 豊かな学びを推進するため、教職員の資質・能力の向上を図る。 (学校におけるいじめ防止等の対策について)			
主な取組	● 校区教職員研修を年間5回実施し、うち2回、研究授業を実施しました。校種の違いを越えて互いの良さから学ぶことにより、双方の授業改善に大きなヒントを得ることができました。 ● 校区人権研修では、外部から講師を招聘して平和についての講演会を実施し、教職員の人権意識の向上を図りました。 ● 教員が互いに学び合えるよう、互いに授業を見合う週間を設定しました(年2回)。担当教科でない授業を参観することで、いろいろな発見があり、自身の授業づくりに生かすことができました。 ● 生徒の人権意識の育成をめざし、いじめ防止の取組として、代議員を中心とした学級集団づくりに力を入れました。またいじめが生じた際は、「いじめ対策委員会」を開催し、迅速かつ組織的に対応を行いました。 ● 生徒の心を育てるため、道徳の授業づくりの見直しを行いました。本校がめざす道徳授業について学べるよう、道徳担当の教員が師範授業を行いました。		
アンケート結果 学校教育自己診断	関連する質問項目	R4	R5
	学校では、お互いの人権を大切にすることを学ぶ機会がある。	96.7%	95.5%
	わたしは悩みごとなどを相談できる友だちがいる。	91.9%	90.9%
	先生はいじめなど私たちが困っていることを真剣に対応してくれている。	93.6%	94.6%
	学校では、いじめ防止について考える機会がある。	92.4%	90.5%
学校評議員からの意見 自己評価及び	教職員の資質・能力を向上させる取組を進めましたが、生徒たちの回答は前年度と比べて減少傾向でした。しかし、全体として高い満足度といえるので、次年度も継続できるようさらなる取組の充実を図ってまいります。 生徒が互いの人権を守り、集団として高まっていくためには、特別活動(特活)の時間での学びが大切です。特活の目標の一つに「人間関係形成」があります。学級会(クラスミーティング)など、生徒たちが自分たちで学級をつくる意識をさらに高め、実践していく取組を進めていきます。 学校評議員さんからは、生徒の人間性を醸成する取組について肯定的なご意見をいただきました。高校生以降は自分の興味や能力が近い人と関わるが増えるため、中学生は多様な人とつながって育つという意味において最適な時期であるから、多様性の中から学ぶ取組を大切にしてほしいというご意見をいただきました。		

5. 次年度に向けて

今年度は、生徒が主体的に思考し、仲間と協働的に活動する過程で深い学びを実現することを大事にして教育活動を進めてきました。予測困難な未来を生きる生徒たちの将来を鑑み、主に総合的な学習の時間において、「本物」を意識できるような学習も行いました。その結果、あらゆる場面で生徒が主体的に考え、行動する場面が見られるようになりました。新型コロナウイルスが5類になり、この3年間では実施できなかったような、生徒たちの豊かな発想を生かした取組を行うことができるようになったことも、生徒の主体性の育成に奏功したと思います。

また、「対話」を通して生徒の心を育てることも大事にしてきました。多様な「個」が1つの教室に集う学校では、考え方や価値観の相違から、しばしば軋轢が生じます。そんな時、安易に生徒同士の関わりを避けるのではなく、衝突を経験して学ぶことも必要だと考えています。いじめ等の事案が生起した際は、相手の気持ちに思いを馳せ、自分はどうすべきだったのかなどを生徒自身に考えさせ、内省を促し、事後の行動に生かすよう指導しています。そういった指導には「対話」が必要です。学級担任のみならず、教科担当や学年担当教員が生徒たちとの対話を通じて、心を通わせる営みがなされているからこそ、そういった指導を行えるものと考えています。

次年度も、本校の教育目標の理念である「人権尊重」「主体性」「豊かな心」を備えた生徒を育成できるよう、教職員一同、情熱をもって取り組んでまいりますので、ご理解ご支援のほどよろしくお願いいたします。